

[基本教育科目/人間力の養成]

| 科目名 | ナンバリング | 区分 (必修・選択) | 単位数 | 履修年次 | 開講学期等 |
|--------------|---|--------------------|--|------|-------|
| 自己管理と社会規範 | NLA11_007 | 必修 | 1 | 1 | 前期 |
| 担当教員 | 研究室 | 電子メール ID | オフィスアワー | | |
| 星野 浩章 | 教員控室 | h.hoshino | 授業終了後に質問等受付 | | |
| 授業の目的・概要 | 自己管理に関しては、自分自身の管理、即ち学生生活をいかに自律的に過ごすか、自分自身をどのように制御しつつ、調和のとれた社会生活を送るか等について考えと共に、看護師として患者の自己管理をどのように支援するかについても体験的に学ぶ。社会規範に関しては、自分自身の善悪や行動の規範は何か、それが何に基づくものか、社会全体のルールに合致したものかなど、個々の規範意識について振り返り、社会人として、看護に携わる職業人としての行動規範を身に付ける。オンラインによる同時双方向授業や課題学習等を通してこれらを理解し、フィードバック等によりさらに理解を深める。 | | | | |
| 学習上の助言 | この科目の学修は初年次教育の一環として、学生として必要な基本的な力を付けることも目標にしているので、自己理解を深めるためにも、自分自身の課題として、各テーマに取り組んでほしい。 | | | | |
| 教科書 | 特に指定なし | | | | |
| 参考書 | 中学・高校時代の「道徳」や「公民」、「倫理」「現代社会」の教科書・副読本・資料集等を各自探しておくこと | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | 関連卒業認定・学位授与方針 | | |
| ① | 自己の管理とはどういうことか、またそれがどのような意味を持つのかを理解できる | HUS(1)、(2)、(5) | | | |
| ② | 自己管理が社会生活を営む上で果たす役割を具体的に理解し、説明できる | HUS(1)、(2)、(3)、(5) | | | |
| ③ | 社会規範とは何か、様々な具体例を挙げて説明できる | HUS(1)、(2)、(5) | | | |
| ④ | 自分自身の規範意識が社会人としてふさわしいかどうか振り返りができる | HUS(1)、(2)、(3)、(5) | | | |
| 授 業 計 画 | | | | | |
| 回 | 学修内容等 | 授業の方法 | 学習課題・学習時間 (時間) | | |
| 1 | 授業内容の概要と課題学修への対応の説明。社会規範とは何かについて、具体的な項目ごとに整理する。質問等はメールで受付ける 自分自身のこれまでの行動や判断の規範は何か、個々に考察する | 印刷教材等での授業 | 慣習や風習、伝承など身近にあるものを調べて資料に回答する。 自分自身の行動や判断の規範が何に基づくかまとめる。 | 1 | |
| 2 | 2回分の学修課題資料を回答・送信、それを添削して返信する。 | 印刷教材等での授業 | 社会規範の具体例を配布資料に基づいて再度整理する。 | 1 | |
| 3 | 法・道徳・宗教・倫理など生き方、在り方として具体的に考察する。 | 印刷教材等での授業 | 規範意識に基づいて現在の問題を考察し、課題資料にまとめる。 | 1 | |
| 4 | 日本の社会の根底にある規範意識について理解する。 2回分の学修課題資料を回答・送信、それを添削して返信する。 | 印刷教材等での授業 | 日本の文化的特質を多様な面から考察し、資料に回答する。 | 1 | |
| 5 | 日本文化の特性や社会に特有の精神について項目別に考察する。 言葉の特性、神の見方、罪悪感 | 印刷教材等での授業 | 日本の文化的特質を多様な面から考察し、資料に回答する。 | 1 | |
| 6 | 日本的な精神 (人間関係・恥の文化・心と形) 2回分の学修課題資料を回答・送信、それを添削して返信する。 | 印刷教材等での授業 | 特性の理解が看護の仕事に役立つことを具体的にまとめる。 | 1 | |
| 7 | 日本人の特性と看護の職場での関わりを考察し、クラス単位のグループ内でメール等のやり取りをしながらレポートにまとめる。 | 印刷教材等での授業 | 目標管理シートに従って、取り組み方をまとめて実施する。 | 1 | |
| 8 | 自己管理の項目を選択して各自の目標を設定し、目標管理シートの作成をする。学修資料として送信し、記入させて返信させる。 | 同時双方向型授業 | 各自支援の内容を受けて、再度目標に向けて取り組む。 | 1 | |
| 9 | 各自の目標に沿って1週間の取組をグループ内でそれぞれ発表し、他のメンバーから支援(助言)を受ける (各G 8名程度)。 | 同時双方向型授業 | 各自支援の内容を受けて、再度目標に向けて取り組む。 | 1 | |
| 10 | 各自の目標に沿って1週間の取組をグループ内でそれぞれ発表し、他のメンバーから支援(助言)を受ける (各G 8名程度)。 | 印刷教材等での授業 | レポートを仕上げ提出(送信)する。 | 1 | |
| 11 | 自分自身の自己管理と他からの支援との関係をレポートにまとめる | 印刷教材等での授業 | クリニカルラダーの一覧表を整理する。 | 1 | |
| 12 | クリニカルラダーとは何か、また看護の職場においてどのような役割をもつかについて理解する。 | 印刷教材等での授業 | 両者のセパレーションの意味と役割を、学修資料に沿ってまとめる。 | 1 | |
| 13 | 自分自身のセパレーションと患者のセパレーションについて、それぞれの内容を具体的に整理する。 | 印刷教材等での授業 | アンガーマネジメントを各自実施し、怒りの型を確認しておく。 | 1 | |
| 14 | アンガーマネジメントについて理解する。 | 印刷教材等での授業 | 怒りの抑え方を整理する。 | 1 | |
| 15 | 先のグループごとに役割を決め、ロールプレイを通してアンガーマネジメントを実際の場面で体験する。 | GW | | 1 | |
| 試 | 看護職としての自己管理ということについてレポートを作成する。学修資料として送信、レポートを返信、添削を送信する。 | | | | |

[基本教育科目/人間力の養成]

| 総合評価割合 (%) | | 達成度評価 | | | | | 合計 |
|---|-------------|-------------|--|------|---------|-----|------------|
| | | 試験 | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | その他 | |
| | | 0 | 40 | 40 | 0 | 20 | 100 |
| 総合力指標 | 知識・技術力 | 0 | 10 | 10 | 0 | 0 | 20 |
| | 思考・推論・創造する力 | 0 | 10 | 10 | 0 | 0 | 20 |
| | 協調性・リーダーシップ | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 10 |
| | 発表・表現伝達する力 | 0 | 10 | 10 | 0 | 0 | 20 |
| | コミュニケーション力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 取組みの姿勢・意欲 | 0 | 0 | 10 | 0 | 10 | 20 |
| 問題を発見・解決する力 | | 0 | 10 | 0 | 0 | 10 | 10 |
| 評価のポイント | | | | | | | フィードバックの方法 |
| 評価方法 | 行動目標 | 評価の実施方法と注意点 | | | | | |
| 試験 | ① | | | | | | |
| | ② | | | | | | |
| | ③ | | | | | | |
| | ④ | | | | | | |
| レポート | ① | ✓ | これまでの学修が今後予想される仕事の中で、どのように生かされるか、また自分自身の課題としてどのように生かしていくかを考え、レポートにまとめる。評価割合は、知識 10%、思考 20%、表現力・課題解決力 20% | | | | |
| | ② | ✓ | | | | | |
| | ③ | ✓ | | | | | |
| | ④ | ✓ | | | | | |
| 成果発表 | ① | ✓ | 自宅学修課題のテーマに基づいて、調査や推論を整理し、資料内の問いに答える。また、資料内のレポート課題にも回答して提出する。評価割合は、思考・表現 20%、課題への取組・意欲 10%とする。 | | | | |
| | ② | ✓ | | | | | |
| | ③ | ✓ | | | | | |
| | ④ | ✓ | | | | | |
| ポートフォリオ | ① | | | | | | |
| | ② | | | | | | |
| | ③ | | | | | | |
| | ④ | | | | | | |
| その他 | ① | ✓ | グループワークやロールプレイなどの取組、対応力、指導力を評価する。評価割合は取組・意欲 10%、対応力・指導力 10%とする。 | | | | |
| | ② | ✓ | | | | | |
| | ③ | ✓ | | | | | |
| | ④ | ✓ | | | | | |
| 備 考 | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 同時双方向型授業をするので、授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ます。 | | | | | | | |